

Medical Chemistry Seminar

『細胞内安定抗体STANDの開発とその適応』
～細胞代謝 (ワールブルグ効果、小胞体ストレス応答、
ウイルスの増殖)の制御と疾患治療へ向けて～

御子柴克彦 教授

上海科技大学 免疫化学研究所
Shanghai Institute for Advanced
Immunochemical Studies (SI AIS),
Shanghai Tech University



日時: 2025年9月24日(水) 11:00–12:00

場所: 医学部A棟103, 107室

細胞の機能は正常な分子間相互作用により引き起こされる。抗体は疾患治療薬として既に確立されているが、これらは全て細胞表面の抗体である。我々は細胞内で働く安定細胞内抗体「STAND」(Stable cytoplasmic antibody: STAND)の技術の開発に世界で初めて成功し、ヒトがん遺伝子産物として知られるKrasの機能抑制や神経シナプスの制御に成功した。我々は小胞体のカルシウムチャネルのIP3受容体が細胞代謝(ガンのワールブルグ効果、小胞体ストレス応答、ウイルスの感染・増殖)に深く関係していることを明らかにし、STANDの適応を考えており、広く細胞代謝の制御から神経変性疾患や癌に対する治療薬開発の可能性も考えている。

日本学術振興会 研究拠点形成事業セミナー

 Kyoto University
Graduate Program for Medical Innovation



KYOTO UNIVERSITY
FACULTY / GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE

問い合わせ: 竹内 理

E-mail: otake@mfour.med.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院医学研究科医化学分野